

やまおり

たにおり

お父さんから息子へ

敵人をうらむる事なかれ。
これ偏に先世の宿業也。
もし遺恨をむすばば、
そのあだ世々に
つぎがたかるべし。



敵を恨むようなことはしてはいけない。これは前世からくる宿命なのだから。もし相手を恨めば、その仇はいつまでも繰り返して終わることがない。法然のお父さんは仲の悪かった武士に夜中に襲われ、その傷がもとで亡くなりました。これはお父さんが亡くなるまぎわに、9歳の法然に語ったと伝えられることです。

法然や親鸞鳥のことはや物語は、800年もリレーされていくんだね。

つなぐことば

法然と親鸞は、家族や師弟と話したことや、会ったこともない昔の人の本、中国の本から仏さまの教えを学びました。そして考えたことを周りの人たちにも伝えました。わたしたちもいくつか読んでみましょう。



やまおり

たにおり

やまおり

たにおり

親鸞鳥

しんらん



- 【ほかの名前】 綽空、善信など
- 【出身地】 京都
- 【誕生日】 1173年(月日は不明)
- 【お父さんの職業】 朝廷の役人
- 【家族】 妻(恵信尼、10歳年下)、子ども(善鸞、覚信尼など)
- 【亡くなった日と場所】 1262年11月28日、京都で。90歳でした。(新暦では1263年1月16日)
- 【親鸞が開いた宗派の名前】 浄土真宗
- 【勉強】 70歳を過ぎてからも、ますますたくさん本を書きました。
- 【尊敬する人】 法然など七高僧、聖徳太子
- 【感動した本(お経以外)】 法然の『選択本願念仏集』、曇鸞の『往生論註』。
- 【最高の夢】 29歳のとき、京都の六角堂でみた聖徳太子の夢。
- 【救いの道を得るきっかけを得ました。】
- 【悲しかったこと】 法然の教えを間違っ理解する人が多くいたこと。
- 【問題を起こした息子の善鸞と縁を切ったこと。】



やまおり

たにおり